

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「麦作情報（第1号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第1号）」を送付しますので、業務の参考にして
ください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
11月	1	14.6	17.7	3.1	20.7	25.0	4.3	9.5	10.8	1.3	14.1	0.0	0	25.7	39.6	154
	2	14.0	16.7	2.7	19.9	21.4	1.5	9.0	11.1	2.1	14.8	14.0	95	24.4	20.8	85
	3	13.0	11.2	-1.8	18.6	15.9	-2.7	8.0	6.5	-1.5	15.3	0.0	0	22.9	30.6	134
	4	11.7	10.0	-1.7	17.3	15.2	-2.1	6.7	5.6	-1.1	14.5	20.0	138	22.5	26.1	116
	5	10.7	11.3	0.6	16.4	18.3	1.9	5.7	4.3	-1.4	13.2	0.0	0	22.4	36.9	165
	6	9.9	10.2	0.3	15.5	15.6	0.1	5.0	4.6	-0.4	13.1	2.0	15	21.6	28.1	130
12月	1	8.9	7.7	-1.2	14.3	13.0	-1.3	4.2	3.2	-1.0	13.2	1.0	8	20.4	25.4	125
	2	7.9	10.5	2.6	13.1	16.8	3.7	3.3	3.8	0.5	11.5	1.5	13	19.5	22.4	115
	3	7.1	14.6	7.5	12.2	18.3	6.1	2.6	10.9	8.3	9.5	13.5	142	18.9	9.6	51
	4	6.7	5.6	-1.1	11.7	8.9	-2.8	2.1	3.0	0.9	8.5	3.5	41	18.6	3.1	17
	5	6.2	2.3	-3.9	11.5	5.9	-5.6	1.6	-0.4	-2.0	7.9	3.5	44	19.3	3.6	19
	6	5.7	7.3	1.6	11.0	13.6	2.6	1.0	2.2	1.2	8.2	5.0	61	24.3	34.3	141

- ・ 播種後の平均気温は12月1半旬、3～4半旬を除き平年に比べ高く、降水量は少ないものの、曇天傾向で推移した。
- ・ 12月21～22日にかけて積雪となり氷点下を記録する日が続いた、
- ・ 11月及び12月の降水量は平年に比べて少雨傾向となった。10mm以上の降水量が記録されたのは11/10、11/16、12/11のみである。それ以降は周期的に1～2mm程度の降雨が続いている。

2. 生育概況

- ・ 令和6年産麦の播種作業は、好天に恵まれ、小麦においては11月15日前後から始まり12月上旬までに完了している。また、大麦においては裸麦で11月15日から始まり、大粒大麦（はるか二条）は11月25日を中心に播種された。
- ・ 適切な播種深度の徹底により出芽には、11月15日前後播種麦で7日ほど、それ以降の11月下旬～12月上旬播種麦で10～14日ほどとなった。発芽揃いは土壌の碎土率や播種深度によってばらつきが多い圃場も確認しているが、概ね良好であった。
- ・ 昨年度問題となった「シロトビムシ」については、種子消毒等の徹底により被害報告は昨年より少ない。
- ・ 12月積雪後、低温や除草剤の薬害等により大麦を中心に白化が散見された。

《麦類の生育状況（1月4日時点）》

- ・ ①11月中旬播種された圃場では、現在、本葉6葉目が展開中（**5葉期**）であり、有効茎の確保期です。
- ・ ②11月下旬播種された圃場では、現在、本葉4葉目が展開中（**3葉期**）であり、分けつ発生期です。
- ・ ③12月上旬播種された圃場では、現在、**3葉期**となっています。

3. 今後の管理

- ・ 今後の管理としては、降雨による湿害を防ぐため、畝間を整備し表面排水を促すことと、生育に応じて麦踏・土入れをこまめに行う。

(1) 排水対策

- ・ 根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）を枕部分まで通すなどして、排水溝の整備を入念に行う。
- ・ 麦類の発根力は最高分けつ期から節間伸長期（おおむね7～8葉期ころ）が最も高いとされている。今後の根の活性維持のためにも排水対策は重要な作業である。



(2) 麦踏み・土入れの実施

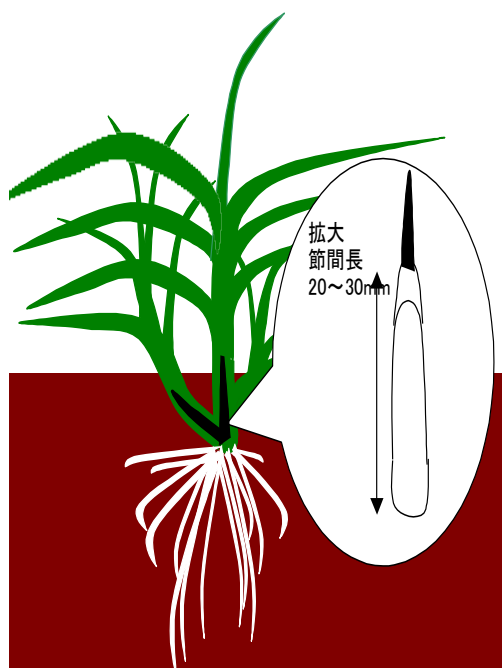
- ・ 麦踏みは3葉期～節間伸長期（草丈25cm程度まで）に4～5回程度行う。ただし、土壌水分が高い状態で行うと、土を踏み固まり根の働きが悪くなるので、土壌が乾燥した状態（畦間が白乾している状態）で行う。土壌が乾燥条件になれば、麦踏み作業は10日間～2週間の間隔で実施する。

○茎立ち期以降は、茎折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

- ・ 土入れは本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。分けつ初期に土入れの量が多いと、分けつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育に応じて土入れの量を増やしていくことを基本とする。

麦踏みの効果：①耐寒性の増加 ②根の伸長促進 ③早立ち防止による凍霜害回避 など
本葉3葉期～節間伸長期（草丈25cm程度）までに4～5回程度行う

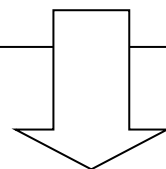
土入れの効果：①防寒 ②倒伏防止 ③無効分けつの抑制 ④雑草防除 ⑤表面排水など
本葉5葉期～茎立ち期（草丈30cm程度）までに3回程度行う



茎立ち期

【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき（葉齢は7葉期）。
節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。



【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が3cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。

この時期になると麦踏はできない。

幼穂凍死の危険が高くなる。

茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

(3) 施肥(追肥)

- ・ 3～4葉期に行い、施用量は地区暦を参照すること。

(4) 雑草防除

- ・ 12月下旬から1月に入り周期的な降雨により本年は早くからイネ科雑草や広葉雑草(カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ミチヤナギ、アメリカフウロ等)の発生を確認している。
- ・ 雑草が多発生している圃場では、播種直後剤(土壌処理剤)のみでは十分に抑えることができない可能性がある。発生がみられる場合は生育期処理剤との体系処理を行う
なお、農薬登録に準じて散布時期を逸ないように実施する。



後発生したミチヤナギ



後発生したアメリカフウロ

近年問題となっている麦類雑草



キンポウゲ科(トゲミノキツネノボタンなど)



アメリカフウロ

< カズノコグサ と スズメノテッポウ の識別法 >

- ・ 「種子の形」や「根の色」で識別できます。
カズノコグサは「白色」で、
スズメノテッポウは「赤褐色」をしています。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



- ・ カズノコグサ対策は、まず圃場の乾田化を図ること。
播種直後処理剤とカズノコグサが1～3葉期までに「ハーモニー75DF 水和剤」との体系処

理を行う。

・ **除草剤散布後は、以下のことに注意する**

- ①「**麦踏み**」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいので控える。また、除草剤散布直前に麦踏みをすると茎葉が痛み、薬害を生じる場合がある。
- ②「**土入れ**」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

(5) **鳥獣害対策 (カモによる食害)**

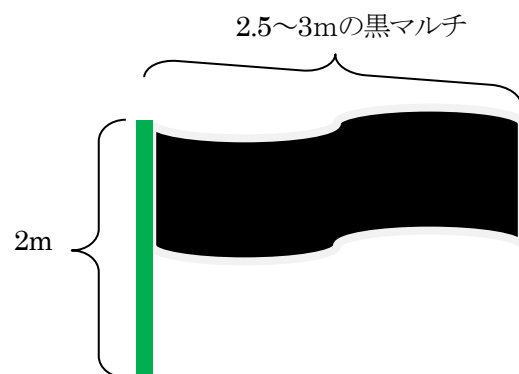
- ・ 右の写真のような被害がみられたら「カモ」による食害である。
- ① 麦の地際部まで草刈機ではらったように切れている
- ② 周辺に鳥のふんが落ちている。
- ・ カモ対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの対策が効果があると言われている。



～「のぼり」の設置方法～

- ・ 2mの支柱 に、2.5 ～ 3.0mの黒色のマルチ をつるした「のぼり」を、
- ・ 10aあたり5本均等 に設置する。

※「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10 aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減します。



令和6年産 麦類作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

